

CASBEE神戸ver.1

株式会社カン研究所(仮称)神戸ポートアイランド本社研究所

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.1

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.1 [Original/C

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>4.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.33</b>					<b>3.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>4.2</b>	0.15					<b>4.2</b>
1.1 騒音		<b>4.0</b>	0.40					
1 室内騒音レベル	目標値:騒音値45dB以下	4.0	1.00					
1.2 遮音		<b>4.6</b>	0.40					
1 開口部遮音性能	T-2	5.0	0.60					
2 界壁遮音性能	D-40	4.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音	天井:岩棉吸音板、床:タイルカーペット	<b>4.0</b>	0.20					
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.9</b>	0.35					<b>3.9</b>
2.1 室温制御		<b>4.0</b>	0.50					
1 室温	24℃を維持できる空調容量	5.0	0.38					
3 外皮性能	窓:複層ガラス+ロールスクリーン、外壁断熱材、屋根断熱工法	4.0	0.25					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御	55%を維持できる空調容量	<b>5.0</b>	0.20					
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30					
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.8</b>	0.25					<b>2.8</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30					
1 昼光率		1.0	0.60					
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.30					
2 昼光制御		2.0	1.00					
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15					
3.4 照明制御	研究員室は一作業単位で照明制御かつ人感センサー制御	<b>5.0</b>	0.25					
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.7</b>	0.25					<b>4.7</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50					
1 化学汚染物質	床、壁、天井はF☆☆☆☆、天井裏はF☆☆☆、接着剤はVOC対策品	5.0	1.00					
4.2 換気		<b>4.3</b>	0.30					
1 換気量	一人当たり30m <sup>3</sup> /h以上	4.0	0.33					
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が100cm <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> 以上	5.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮	ガラリの離隔距離あり	4.0	0.33					
4.3 運用管理		<b>4.5</b>	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視	手動による計測前提で、引き渡し時にマニュアル整備を計画	4.0	0.50					
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>					<b>4.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.4</b>	0.40					<b>4.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40					
1 広さ・収納性	一人あたりの執務スペース9.7m <sup>2</sup>	4.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応	OAフロアの採用、コンセント容量40VA/m <sup>2</sup> 以上	4.0	0.33					
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす	4.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.30					
1 広さ感・景観	研究員室の天井高さ3.0m、十分な窓の設置	5.0	0.33					
2 リフレッシュスペース	リフレッシュルーム+自販機置場を設置	5.0	0.33					
3 内装計画	評価項目をすべて実施	5.0	0.33					
1.3 維持管理		<b>4.5</b>	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	汚れにくい材料、納まりを採用	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	清掃員控室、管理倉庫、各階にリサイクル室、清掃用流し、4階に洗濯室	5.0	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.5</b>	0.31					<b>4.5</b>
2.1 耐震・免震		<b>5.0</b>	0.48					
1 耐震性	免震構造の採用	5.0	0.80					
2 免震・制振性能	免震構造の採用	5.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>4.0</b>	0.33					
1 躯体材料の耐用年数	PC版(鉄筋コンクリート)の耐用年数65年(外部仕上表・耐用年数一覧表)	4.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数20年以上(内部仕上表・耐用年数一覧表)	5.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクトはガルバリウム鋼板仕様	5.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:塩ビライニング鋼管 排水:塩ビ管 E不使用	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔	主要設備は、受変電、エアハンドリングユニット、ファン	4.0	0.23					

<b>2.4 信頼性</b>			<b>4.2</b>	0.19		-	
1	空調・換気設備	熱源に2重化	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用	4.0	0.20		-	
3	電気設備	非常発電機の設置	5.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	通信機器の多様化、精密機器の浸水対策を行う。	4.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.7</b>	0.29		-	<b>4.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高5.0m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.12	4.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		5000N/m <sup>2</sup>	<b>5.0</b>	0.31		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.7</b>	0.38		-	
1	空調配管の更新性	ISSIによる	5.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	ISSIによる	5.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	ISSIによる	5.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	ISSIによる	5.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	ISSIによる	5.0	0.22		-	
6	バックアップスペース	予備スペースの確保	4.0	0.22		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.37</b>		-	<b>3.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>4.0</b>	0.30		-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		立地特性に応じた樹種の選定、外構緑化指数52%、建物緑化指数5%	<b>4.0</b>	0.40		-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30		-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	排熱の屋上集約化	<b>4.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	<b>4.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>		-	<b>4.3</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>			<b>3.4</b>	0.10		-	<b>3.4</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>4.0</b>	0.26		-	<b>4.0</b>
2.1	自然エネルギーの直接利用	アトリウム自然換気	<b>4.0</b>	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネル	<b>4.0</b>	0.50		-	
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>5.0</b>	0.39		-	<b>5.0</b>
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=46.2%	5.0				
集合住宅の評価							
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.0</b>	0.26		-	<b>4.0</b>
4.1	モニタリング	中央監視による	<b>4.0</b>	0.50		-	
4.2	運用管理体制	引渡し時に、運用、維持、保全の基本方針を作成予定	<b>4.0</b>	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>4.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.15		-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水器具	<b>4.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.3</b>	0.63		-	<b>4.3</b>
2.1	材料使用量の削減	方杖プレースの採用による鉄骨梁断面の合理化	4.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉鋼材	5.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイルカーペット、ビニル床シート、階段滑り止め	5.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	軽鉄+仕上を主とし、設備は軽鉄間仕切内、OAフロア、可動間仕切採用	5.0	0.24		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.22		-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		床、壁、天井はF☆☆☆☆、天井裏はF☆☆☆☆、接着剤はVOC対策品	5.0	0.32		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.68		-	
1	消火剤	N2消火	4.0	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を使用	5.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.8</b>	0.33		-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33		-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		屋外機はショートカットをしない配置としている	<b>4.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.6</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制	中和装置による汚水負荷低減	4.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	駐車場を適切に確保。駐車場出入口は2ヵ所とし極力離して配置。	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの項目の過半を満たしている	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	